

## 第5回 幼稚園教諭・保育士合同研修会 (12月2日 池上会館にて・参加者129名)

元児童図書館員、千葉 晶先生をお迎えして「改めて学ぶ絵本の読み聞かせの意義と実践」をテーマに講義と読み聞かせの実技、研修生の質問に答えていただきました。



### <読み聞かせについて注意すること>

- 読み手が中心ではなく絵本が中心であること

絵本が主役であり、絵本を目立たせることが大事。読み手は絵本が引き立つよう、目立つ服装は避ける。

- 話を聞く子どもに気配りをする

子どもが集中して聞けるよう、読み聞かせを始める前は余計な話はせず、絵本を持つ位置を子どもの目線に合わせる。子どもが椅子に座っているときは大人が立って読み、子どもが床に座っているときは椅子に腰かけて読む。子どもはページをめくったときに絵から目に入るため、ページをめくってすぐには読まない。本を読み終えたら、裏表紙を見せ、合わせて表表紙も見せて「おしまい」と言って終了する。絵本は読みっぱなしでよい。読み終えたときの喜びや満足感を大切にする。

- 作者、画家に対してはリスペクトの気持ちを忘れない(勝手に文や言葉を変えない)

声色を使うことを考えないで、語りを丁寧に淡々と読む。方言は1つ2つであれば説明をしてもよい。

### <絵本の選び方について>

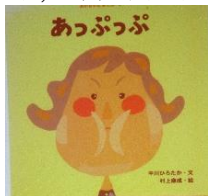
- ・年齢にあった絵本を選ぶ。「ぼくの絵本わたしの絵本」0歳から6歳までの絵本ガイドを参考にするのもよい。(初版から20年迎えた絵本は、子どもに支持されている証拠)
- ・絵が生き生きと描かれているか、絵を見ただけでストーリーがわかるもの。
- ・結末が満足感のある話。自分が楽しいと感じた絵本。



休憩中に絵本を手にとって見られるよう  
講義の中で、紹介された本を展示。

### <講師から紹介のあった読み聞かせの本の一部>

(1,2歳児向き)



あっぱっぱ  
中川ひろたか 文 村上康成 絵  
ひかりのくに

(3歳児向き)



おおきななな  
A・トルストイ 再話 内田莉紗子 訳  
佐藤忠良 画 福音館書店

(4,5歳児向き)



きょだいな きょだいな  
長谷川旗子 作 降矢なな 絵  
福音館書店

講義のあと、プロジェクターで絵本を見せながら、講師による読み聞かせがありました。  
なっちゃんとおぼく 梅田俊作/佳子 作・絵 岩崎書店



### 参加者からの質問コーナー

- Q1 絵本に集中する環境は？  
A1 児童に支持されている本を手に取りやすいところに置く。おすすめの本を数冊置く。
- Q2 読み聞かせの途中で、内容について話しかけてきたときの対応は？  
A2 1対1のときは答えてよいが、大勢の中では話が途切れるので対応しない。
- Q3 読み聞かせのとき、直ぐページをめくってしまう子への対応は？  
A3 絵本が子どものグレードにあっていない。別の本を選ぶ。

園や図書館で読み聞かせをしてきた中で「おじさん、今の話面白かったよ」と言ってくれたことは喜びであり、絆が深まっていくと感じた。読み聞かせを通してたくさん絆を深めていってほしいと思います。

**講師からのメッセージ 「絵本の引き出しを多く持ち、熱い思いを伝え、絆をつくってほしい。」**

### ～アンケートから、参加者の感想～

- ・最後に聞いた「なっちゃんとおぼく」は、物語の中での“ぼく”の気持ち、行動を大人の自分もいろいろ考え感じ聞くことが出来て、いつも受け取る側の子どもたちはこうやって様々なことを感じているのだろうなと思った。
- ・読み聞かせをするときの環境、配慮や年齢にあった本の選び方は参考になった。
- ・読み聞かせのポイントがレジュメにまとめてあり、わかりやすく、すぐ実践できる内容だった。
- ・紹介された本が展示してあり、手に取ることが出来て良かった。